

# 娘から「一番ぜいたくな昼食」

県立野田女子高（出水市）で20日、食物科の3年生が保護者を学校に招き、手作りの松花堂弁当をふるまった。料理人の卵たちが卒業を前にメニューづくりから盛り付けまで手がけた「料亭の味わい」。娘たちの成長ぶりを見た母親らは「これまでで一番ぜいたくな昼食」をかみしめた。

## 野田女子高の食物科3年生「感謝の集い」

同校は卒業時に調理師免許が得られる調理師養成施設。「感謝の集い」は3年間の学習の成果を保護者に味わってもらう恒例行事

で、例年なら30人余りいる3年生が今年は16人。少ない人数だが「妥協はできない」と、これまで通りの品数で手間も惜しまず、午前

6時から取り組んだ。これも生徒たち手作りの湯飲み茶わんや菓子皿が、料理に彩りを添えた。寮生活を送ってきた伊佐



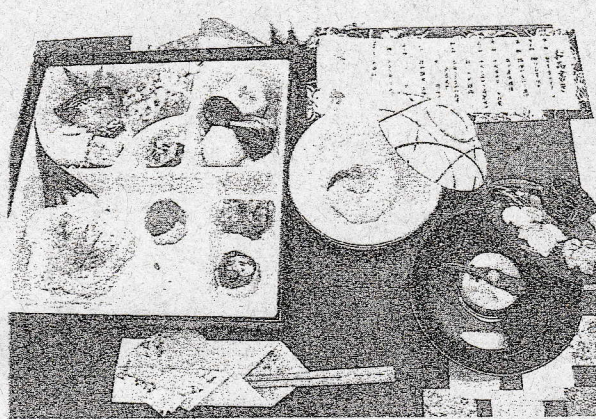
宮下静香さん（右）から贈られた感謝のメッセージを読む母真由美さん



柳ヶ水亜子さん（左）から贈られた感謝のメッセージを手笑顔を見せる母直美さん

市出身の宮下静香さんは、来春から福岡の専門訓練校に通い、和食のプロを目指す。弁当のそぼろずしや市松信田煮などを担当。将来は青年海外協力隊に参加し、途上国で和食を広めたいという。

地元から通う柳ヶ水亜子



生徒たちがふるまった松花堂弁当。箸袋なども手作り



娘から贈られた感謝のメッセージに涙がこぼれ料理に手がつかない母親もいずれも出水市

## 母親ら笑顔で舌鼓、メッセージに涙も

さんは3人姉妹の末っ子。春から親元を離れて鹿児島市内の老舗結婚式場で働く。フランス料理を究めるため、本場フランスへの留学も夢見ている。「母には目で楽しんで味わってほしい」と、見た目にもこだわって蒸し物などを手がけた。娘たちが料理にかける志を、どう受け止めたのか。

宮下さんの母真由美さん（54）は「和食は男の世界というイメージがあって不安はあるが、頑張ってくれると思う。海外に行く夢も応援したい」。柳ヶ水さんの母直美さん（47）は「とにかく頑張り屋さんだから自分で決めたことは必ずやり遂げてくれると信じている」と語った。

会場には「おいしい」という声と笑顔があふれた。一方、テーブルに置かれた感謝のメッセージに涙があふれ、箸を持ったままなかなか料理に手をつけられない母親の姿も。

春から16人のうち12人は一人前の料理人を目指し、厳しいプロの世界に飛び込む。桑原田茂樹校長は「周囲に支えられて積み重ねてきた経験を、人生の中で生かしてほしい」とエールを送った。

（城戸康秀）